

このまちに生きる

第17回一障がい者施設地域交流展示会

足立区内の社会福祉法人「あしなみ」「あだちの里」「はなさく福祉会」と「リード・エー」の4法人合同で地域交流展示会を毎年開催しています。私たちの施設では、障がいのある人たちが働き、創作活動や表現活動等を行っています。近年、社会全体で「地域共生社会」の実現が求められ、障がいの有無にかかわらず、誰もが地域で役割を持ち、互いに支え合うことの大切さが改めて認識されるようになりました。私たちの施設でも、仕事を通じてのお客様、クラブ活動の先生や仲間、活動を支えてくださるボランティアの皆様など、多くの方々と関わりながら、日々の活動を積み重ねています。その中で、「障がい者」「健常者」という区分ではなく、一人ひとりを名前呼び合い、互いの個性を尊重し合える関係が自然と育まれていくことを実感しております。こうした交流こそが、地域におけるインクルージョンの基盤であり、私たちが大切にしてきた取り組みです。

コロナ禍を乗り越え、地域活動が再び活発になりつつある今、障がいのある方々が地域でいきいきと生活し、新たな挑戦を続けている姿を、より多くの皆様に知っていただきたいと思います。

とても暑い時期ではありますがぜひ会場にお越しください。お待ちしております。

開催期間:2026年8月18日(火)~8月21日(金)

会場:足立区役所中央館1階 アトリウム

常設展示 9:00~17:00 (最終日は15:30まで)

体験コーナー:ぜひご参加ください(参加費無料)

	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)
10:00~12:00	さをり織り	かき氷ばさみ づくり	アイロンビーズ	車いす体験
13:00~15:00	さをり織り	かき氷ばさみ づくり	アイロンビーズ	車いす体験

作業所日記

島田 洋一

皆さんこんにちは。あっという間に8月になりました。梅雨もあけて、夏、真っ盛りです。とても暑いですね。夏バテせずに、体調管理はできていますか？

さて7月は、ベルmont公園、大谷田公園への花壇の整備と植え込み、花苗販売では、竹の塚センター、ベルクス南花畑、ベルクス古千谷、珍しいところでは、7/5草加の「スロースカフェ」様から、出店のご依頼いただきまして、多肉植物などを持参して花売りに参加しました☆私



は、7/9にベルクス南花畑での花苗販売に、ベテランの松本さんに行ってきました。当日はとても暑く二人とも苦労しましたが、汗をたくさんかいて充実した日でした。環境省と気象庁は、7/8、熱中症の危険性が極めて高くなる危険な暑さが予想されるとして、6つの都と県に「熱中症警戒アラート」を発表しました。こうした発表は、皆さんの健康に関わるとても大切なものです。今年の東京も猛暑です、体調管理をしっかりと行いながら、作業を進めていきましょう。公園清掃、畑、北療育セン

ターなどの外部の除草や公園などの植え込み、花壇の手入れ作業、花苗の販売など屋外の作業も忙しいシーズンです。そして、夏の天候はとても変わりやすいので、台風や大雨、猛暑の予報には常に注意をはらう必要があります。特に屋外作業での熱中症対策として、日よけ部分の広い帽子やタオルなどを着用し、30分ごとに休憩をとって、こまめに水分補給を行っています。もしも、体調面で不安がある時は、遠慮なく早めに職員に申し出てください。さて、畑での苗管理も、この猛暑でとても難しくなっていますが、七月からの暑さにも負けず、花を咲かせてくれました。メランポジウム、ルドベキアなどが清々しい黄色の花を咲かせてくれました。強光や暑さにも強く花期も長いので今頃お客さんの手元で元気に育っているでしょう。町で見かけた際には、ぜひ意識してご覧になってみてください。内職では、検尿作業、シール貼り、封入作業、お菓子の化粧箱折り、重要部品のガスキットの組付けなど精度が要求される仕事の依頼もたくさんありました。とても忙しかったですね。今後も丁寧かつ慎重に進めていきましょう。作業の合間で定期的に行われている、メンバーのみなさんの身体の機能向上、機能維持、ストレス発散を目的として職員と看護師が担当となって元気プログラムを実施しています。内容としては、パズル絵合わせ、かるた並べ、ボール運動、体感トレーニング、歩行トレーニング、柔軟体操、発音練習など。これからもメンバーの皆さんが葦の会作業所で健康的に楽しく作業できる手助けになればと、今後さらに力をいれていきます。皆さんもご協力お願いします。8月も皆さんが充実した時間を過ごせるよう努めていきます。



< 今月の花売り情報 >

8月 6日(木)・18日(火)・26日(水) 竹ノ塚センター

8月19日(木) BlgA 南花畑

8月20日(木) ベルクス古千谷

新緑とレンゲツツジを堪能 赤城山系 長七郎山ハイキング



6月6日（土）に赤城山系の長七郎山へハイキングに行ってきました。少し遠いので朝7時30分に作業所を出発。渋滞が怖かったのですが、渋滞することもなく10時前には道の駅「赤城の恵」に到着。みんなそれぞれ好きなお弁当選び\(^o^)/ が・・・「道の

駅着いたよ～、お弁当買いましょ～」の声掛けに全く応じない人が。なんと中原さんは爆睡！！耳元で「お弁当！！買いに行こう～！！」と繰り返すこと5分以上。やっと目を覚まし、皆の後を追いかけて無事お弁当購入しました。みんな好きなお弁当を選ぶのも、もう慣れたもの・・・中には2種類のお弁当を抱えてレジに向かう人もいて、「えっ!? 二つ食べられるの?」に対して満面の笑みで「うん!」

バスで赤城山ビジターセンターまで上がっていく道中は、カーブを曲がるたびに、急に霧が濃くなったり、すっきり晴れたりを繰り返しました。前日が雨だったこともあり、今回も覚満淵は霧の中かなあ? などと思っていました。（以前赤城山地蔵岳に行った時は、濃い霧に覆われて、何も見えませんでした）予定通りの時間に到着。覚満淵は下見の時（4月下旬）には、全く新芽が芽吹く気配もなくブラウン系の山だったのに、霧はほんのりかかっているところがあるものの、レンゲツツジの明るいオレンジと新緑と青い空！最高の景色です。覚満淵を周って「気持ちいいね～、きれいだね」と言いつつ、長七郎山へ。山頂に到着、自分で選んだお弁当を食べ、小沼へ向かって降りていきます。その途中の広く開けたところに、石を積み上げた山があちこちに・・・「長七郎山 さいのかわら」と書いた木札がぶら下がっていました。山頂からずっとザレ石がたくさんあって、開けたこの場所で最初は誰かがふと石を積んでみたのが、その後通る人が、積んでいったのか・・・。



そしてたどり着いたのが、波がなく周りの山を湖面に移しているとても静かで美しい小沼。やっぱり出てくる言葉は「気持ちいいね～、きれいだね～」。（他の感嘆詞が出てこないのが少し寂しい）小沼の周りのレンゲツツジも堪能しつつ、バスが待つビジターセンターまで戻り、帰路につきました！天気も良く、新緑の山とレンゲツツジ、覚満淵を堪能し、渋滞もなく最後まで気持ちよく過ごすことができ、今回のハイキングも最高でした。

さて、つぎはどこにしようかなあ、お楽しみに。（池田）

あしの家だより



【西新井ホーム】

火ノ川 美清子

長い梅雨だなぁと思っていたら急な猛暑や大雨にやられる毎日な7月🌧️ 今年から導入された酷暑という言葉も毎日聞きすぎていて、外に出るのが億劫になりそうです🌞 エアコンも全室フル稼働のため業者さんにクリーニングしてもらい快適になりました！！

メンバーも毎日暑い中日々の仕事に励んでいます。



勝さんはお盆休みを楽しみにしています。今年はどこにいくのかなぁ💭 ときくと「成田空港に行きたいです！」「飛行機が見たいです」とのこと。飛行機は羽田でも見られるけど、なぜ成田??と聞くと、しばらくたってから「スカイライナーに乗りたいです」なるほど！もしかしたら、飛行機よりもスカイライナー乗車が目的なのかも?? そのほかの人も、夏休み中のお出かけをととても楽しみにしています＼(^o^)/ 帰省される方も、お家で楽しく過ごしてきてくださいね。でも、毎週のようにお出かけをしている中原さんは、今年は通所している施設は夏休みがないとか・・・それぞれの夏を楽しんでほしいですね。

これからもっと毎日暑くなると思うと本当に嫌になりますが、熱中症などの対策もしっかりしていきたいと思います。

【西伊興ホーム】

生駒 亨子

梅雨入りから梅雨明けゲリラ豪雨と続きまた暑い暑いなが〜い夏に入りました。メンバーのみなさんには、朝出発前と帰宅時の水分補給は欠かさず行い、部屋の温度調整も気を付けて行っています。メンバーさんは、朝食、夕食は残さず完食の毎日なので食欲はOK!!🍴 なによりです。

田沢さん安部さんはグランファミリアの物作りに参加され、手作りのお花を玄関に飾ってくださいました。毎週帰省される花田さん、青木さんは、ホームに戻った際はお家で何をしてきたか話してくださいます。松本さんは、休日、部屋でチラシを使って、皆が食卓で使えるゴミ入れを綺麗に折って渡してくださいました。増田さんは、



久々に自宅に帰り買い物をされた笑顔😊で話してくださいました。8月のお休みの様子をまた、たくさん聞ける事を楽しみにしています！😊暑い暑い夏を体調万全でのりこえましょう!!

編集後記

7月28日に熊本でまた震度7を記録する地震が起きました。ちょうど10年前に同じ地区で起きて、10年かけてやっと平穏な生活を取り戻してきた矢先の再度の震災。被災された皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。しかし、この酷暑の中避難されている方々のことを思うと、胸が締め付けられると同時に怒りと口惜しさが滲みます。阪神淡路大震災から31年、その後も東日本大震災、熊本地震、能登半島地震と大きな被害を出し、避難生活の困難をこれだけ目の当たりにしてきたのに、未だに体育館で雑魚寝を強いられ、水や電機が届かない。いったいどうしてなのでしょう。今回台湾から空輸で個室風間仕切りテントや簡易ベッドが贈られました。また、日本企業が開発した段ボールベットや間仕切り、トイレ等があります。なぜこれらを政府として十分に備蓄し、迅速に供給できないのでしょうか。地震・水害等全国で自然災害が多発している今、減災はもちろんのこと、被災した際の手当てを国としてきちんとすべきです。「自己責任」ではありません。防衛費に膨大なお金をつぎ込む前に、今生きている人の命を守る為にやるべきことをしてほしいと強く思います。つい先日、能登地震で被災され、「やっと工房で仕事ができるようになったから」と東京で作品展を開かれた輪島塗の工房の方と話をしたばかりでした。書いていると憤りが止まらなくなります。そんな中、上映中の映画「開戦前夜」を観ました。この映画に関してはある人物の描かれ方について議論もあるようですが、内容として「国家のあり方」や「私たちの生活・日常・命が奪われるような決定」が得体の知れない「空気」に流されていく恐怖しさが、現代に通じる問題として描かれています。私が中学生の頃、母に「なんで戦争は嫌だ」「竹箴訓練なんてばかっていると言わなかったの」と聞いた際の母の答え、「言えるはずもないし、気が付いたら戦争は始まっていた」という言葉を思い出しました。こんな言葉を子供たちに言わせてはいけません。私たちにはやるべき事、考えるべき事がたくさんあります。まずは、いま日本を襲っている台風による被害が、これ以上出ないように祈るばかりです。皆様、ご自愛ください。（池田）